

本日はご卒業おめでとうございます。ご家族、保護者の皆さまにもお祝いを申し上げます。

明日は 10 万人の犠牲者を出した東京大空襲から 74 年目、3 月 11 日は東日本大震災から 8 年目となる日です。

さて、4 月から皆さんの多くは職業人として看護の世界に仲間入りされることと思います。

私は今からうんじゅう年前に看護大学を卒業して、臨床、管理、教育に携わってきました。その間、大学院に進学して、修士課程、博士課程で学びました。

世の中にはさまざまな魅力的な世界がありますが、看護の世界もその中のひとつです。私も看護の世界で仕事をすることに飽きることはありませんでした。

看護には限界がないといわれます。「医学にはこれ以上やっても無駄という限界があるのですが、看護には限界がないのです。患者を助けるために看護ができることは常にあり、その援助は医学が見放しても続くのです。」ここで「静かな体位交換」を紹介しましょう。（大西恵美子著、看護倫理を考える言葉、日本看護協会出版会、2018 年、47 頁）大西は、看護師になって初めての夜勤のときの「静かな体位交換」の場面を記述しています。「その夜勤の時、ある高齢患者は既に呼びかけに反応しなくなっていました。医師は心電図モニターを指して“あれがフラットになったら呼んで”と出てゆきました。それは、後は死亡診断だけという医師のサインであり、病室には先輩と私の 2 人の看護師が残りました。その先輩は私を伴い、返事のないベッドサイドに立つと、「〇〇さん」と静かに呼びかけ、“今まで横向きでしたね、お疲れでしょう、今、上を向くお手伝いをしますね”と耳元にささやき、患者の手をとっていました。先輩に促されて私も患者の手をとりながら、医師と看護師は見ているものが違うと思った」と書いています。「医師の関心は恐らく、患者の心臓と臓器であるが看護師は、患者「その人」であり、いつものように名前呼びかけ、安楽に安らかにと手を差し伸べる。その態度は、患者に意識があるかないかは無関係なのです。」

本日は、この世界の先輩として「はな向けの言葉」を皆さまに送りたいと思います。「はな向け」という言葉は私が好んで使う言葉です。語源を調べてみますと、遠方に旅立つ時に道中の安全を祈願して馬の鼻先を目的地の方向に向けたという習慣から「馬の鼻向け」という言葉となり、略してはなむけになったということです。つまり、旅立ちや門出を祝って別れていく人への贈る言葉という意味です。

はな向けの言葉のひとつめは、新たな組織に入る、つまりどのようにしてチームメンバーになるかということです。

シャイン(1993)によりますと、個人が集団に加入する際に4つの課題があるといえます。それらは、①アイデンティティ(自分は何をするべき人か)、②コントロールと影響力(自分は他者に対するコントロールや影響力の行使が可能だろうか)③個人の要求と集団の目標(集団の目標に自分自身の要求は含まれているだろうか)④受容と親密さ(自分は集団に好かれ、受け入れられるだろうか、われわれはどのくらい親しい集団になるのだろうか)ということです。

メンバー(つまり新人ナースとして)がこれらの課題に取り組み、自分の居場所を見つけるまではいくつかの成長の痛みを耐えなければなりません。もし、公式の組織構造がそのような成長を受け入れなければ、その集団は集団の力を結集する本当の集団(チーム)にはなれず、それは単に個人の集合にすぎないというのです。

皆さんが新たな職場で自分の居場所を早く見つけ、成長の痛みが少ないことを願っています。新人歓迎会にも積極的に参加するとよいでしょう。

次に、キャリアを成功に導く基礎力を紹介しましょう、これがはな向けの言葉2つ目です。(大久保幸夫, 2004, リクルートワークス研究所所長)

若い頃に開発しておくべき3つの能力です。

第一の能力は「^{リズクシヨン}反応力」です。

相手からの投げかけや言葉に対して反応していることを相手にわかるように表す力です。コミュニケーションの基礎中の基礎です。最も簡単で非常に効果が

ある方法は「うなずく」ということです。

もしもこの能力がないと、何を考えているのかわからない人に見られます、さらに情報が集まってこなくなるのです。

第二の能力は、「愛嬌力」です。

柔和な表情や茶目っ気のある笑顔で人を引きつける力と定義されます。若くても、年齢や役職が上の人に抵抗なく声をかけて、実力はまだまだなのだけれどもかわいがられる人がいますが、このような人の特徴です。愛嬌力のある人は決まってあいさつの達人です。

もしもこの能力がないと、応援してくれる人の数が極端に少なくなるといわれます。「自分のいい笑顔」の標準形を作り、愛嬌力を鍛えて下さい。

第三の能力は、「楽天力」です。

この能力は「仕事にはつきもののストレスに対して、自分に適した処理方法を持ち、戦略的に解決していく力」と定義されます。究極の積極的ストレス解消法は楽観的になることです。悪いことばかりではない、今度はいいこともあると考えたり、あの人だって悪いところばかりじゃない、いいところを見ていこうというポジティブシンキングをすることです。

もしもこの能力がないと、前向きに考えることができなくなり、時に病気になることもあります。たいていのことは自分ががんばれば何とかなると考えられるような鍛錬と実績を積んで下さい。

最後に「長寿化時代の新しいステージ」を紹介しましょう。

リンダ・グラットンとアンドリュー・スコットが書いた「Life Shift 100年時代の人生戦略」（東洋経済新報社, 2016年）によりますと、人口学者たちの推計では2007年生まれの日本の子どもは107歳まで生きる確率が50%あるということです。

長寿化の時代、つまり人が長く生きるようになると職業生活に関する考え方が変わらざるを得ません。人生が短かった時代は、「教育→仕事→引退」という3ステージでした。しかし、3ステージの生き方が当たり前だった時代はすでに終わっているのです。

人生に現れる新しいステージは、①選択肢を狭めずに幅広い針路を検討する「エクスプローラ（探検者）」であり、②自由と柔軟性を重んじて小さなビジネ

スを起こす「インディペンデント・プロデューサー（独立生産者）」であり、③さまざまな仕事や活動に同時進行で携わる「ポートフォリオ・ワーカー」のステージであるといえます。つまり教育を受け、卒業して仕事をし、引退するという決まりきった人生ではなく、それぞれの人生はいかようにもデザインできるのです。

今年度、東京医科大学は入試の不正等で社会的批判をうけ大きな制裁をうけました。

第三者委員会報告は、次のように指摘しています。「憲法や教育基本法等の平等原則を求める法規範、教育基本法に示された大学の公共性、大学設置基準が求める入学者選抜の中立・公正、東京医科大学の学則以下の諸規程及び学生募集要項の趣旨にも反する不合理で許されないことである」と断じ、是正する措置を講ずるよう提言しています。

東京医科大学の建学の精神、伝統と誇りが、困難をのりこえ、再生を導いていく力となるものと信じています。

本日、卒業される皆さんのこれからの人生を祝い「(AI ではできない) 人間にしかできない看護の仕事」を共に続けていきたいと思えます。皆さんが選んだ看護の道は、いつも平坦な道ではありません。いびつなところもありますが、自らの生き方に価値を与えてくれる豊かな世界が広がっています。皆さんが生涯をかけて挑戦するには十分な相手でしょう。

皆さんの前途を祝します。

これで、少々長い私の「はなむけの言葉」を終わります。

おめでとうございます。

2019年3月9日